



【第2回】 認知症と共に生きる～コロナの時代に考える～

福祉ジャーナリスト

町永 俊雄

認知症は誰もがなりうると言われています。そもそも認知症の発症の多くは加齢リスク、つまり年をとることにあります。つまり、長寿の社会は、取りも直さず認知症の社会なのです。

日本の高齢化率は28.4%、世界一の長寿の国です。ということは認知症の人も増えるのは当然です。

2025年には高齢者の五人に一人が認知症と推計されています。

誰もが認知症になる時代なのです。仮にここにひと組の夫婦がいて、めでたく平均寿命まで添い続けられるとしたら、80代後半の認知症の割合は50%を超えますから、ご夫婦のどちらかはまず認知症になるという確率は極めて高いのです。

だから、「認知症とともに生きる社会」なのです。認知症になることを怯えと不安の中で描くのではなく、認知症になっても安心できる地域を創ろうというのが、地域包括ケアシステム(注一)であり、地域共生社会です。

現在は、認知症の人でも自分らしく地域で生き生きと暮らす人がとても多くなっています。おそらくテレビや新聞でそんな人のことを見たり、読んでいたりしたことがあると思います。認知症になっても安心の社会というのは、いうまでもなく認知症ではない人や、子供や子育て世代にとってもやさしい社会です。



現在の医学では、残念ながら認知症は治すこともできず、予防することにも確かな根拠はないとされています。

誰もが老いを防ぐことはできません。しかし備えることはできます。老いることは衰退する人生なのか、それとも豊かに成熟する人生と地域にするのか。

「認知症とともに生きる」は選択することではなく、今、目の前にある、この社会の現実と言えるのだと、私は考えています。

(注一)可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることが出来るよう、地域全体で支え合う仕組み。



渋川地区在宅医療介護連携支援センター

渋川市渋川(長塚町) 1760-1

渋川ほっとプラザ2階

TEL: 0279-26-3990/FAX: 0279-26-3903

お近くの医療機関・介護事業所を検索できます

<https://renkei-shibukawa.secure.force.com/>



うちのパソコンで、自分のスマホで
地域の医療・看護・介護を知ろう

オンライン いきいきフェスタ開催中

渋川地区
渋川市・榛東村・吉岡町

今年で4回目を迎える「医療・看護・介護連携フォーラム」は「いきいきフェスタ」に改名しました。
新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、2020年12月1日よりインターネット上で開催しています。

介護支援専門員/ケアマネのお仕事

訪問看護ができること

高齢者の総合相談窓口

しっかり食べて低栄養予防！

歯科衛生士から学ぶ！お口のケア

自然治癒力を生かす-柔道整復師会

高齢者の自動車運転について

認知症疾患医療センターの役割

おうちでカラダを動かそう

ずーっと食べ体操

認知症予防体操

「まちの保健室」活動

薬の飲み残しをなくしましょう

「元気県ぐんま」を作ろう

仲間づくりは健康づくり-老人クラブ

こんなお悩みありませんか。

こんなお悩みがある人に
教えてあげてください。

☐ 介護のことは
どこに相談したら？

☐ 看護、介護…
だれか手伝ってくれない
かしら

☐ お出かけしないので
体力がおちたかな…

☐ 家族が認知症かも…

簡単なアンケート回答でもれなく参加賞がもらえます！

さらに期間中、抽選で毎月5名様に豪華景品プレゼント。詳しくは「いきいきフェスタ」ホームページで。

URL <https://sites.google.com/view/ikiikifesta2020/>

問合せ先

渋川地区いきいきフェスタ実行委員会事務局/

渋川地区在宅医療介護連携支援センター：TEL 0279-26-3990



こちらの
QRコードから
見られます

新型コロナウイルス感染症にかかる相談窓口について

かかりつけ医等、身近な医療機関に「電話で相談」してください。
相談する医療機関に迷う場合は「受診・医療相談センター」に
お電話ください。
地域の医療機関をご案内します。

県受診・相談センター (24時間対応)



0570-082-820

相談の目安

- ☐ 高熱
- ☐ 強いだるさ（倦怠感）
- ☐ 息苦しさ（呼吸困難）
- ☐ 発熱が続く
- ☐ 咳が続く

